市内の各中学校では、学習指導要領の狙いを受けて「子どもたちの生きる力をはぐくむ」さまざまな教育活動を行い、特色ある学校づくりを進めています。「教育のひろば」では、家庭・学校・地域がお互いを理解するとともに、同じ目的に向かって協力し合える姿を目指し、教育活動の紹介を行っています。今月は白川中学校です。

白石市立 白川中学校

☎27-2102 FAX27-2185 URL http://www.shirakawa-j.myswan.ne.jp/ Eメール chief@shirakawa-j.myswan.ne.jp

教育目標

白川中学校生徒として誇りを持ち、主体性・創造性を身に付けるために以下の生徒像の育成を目指す。

目指す生徒像

「進取」自ら進んで学び、自分を高めるように努力する生徒
「敬愛」他者への思いやりの心を持ち、お互いに楽しい生活を送る生徒
「活力」心身ともにたくましく、将来を自ら切り拓いていく生徒

目指す教師像

○研修する教師
○感動する教師
○信頼される教師

●特色ある教育活動

●学力向上への取り組み

平成20年度は、授業力の向上と、学習習慣の形成を図り学力の向上を目指す、次の5つの取り組みを行っています。

①教師全員による研究授業と授業検討会、生徒と保護者による授業評価を通して、授業力の向上に努めます。
②指導内容と評価方法などを教員、生徒、保護者の三者で共有します。
③「読書の時間」と「補充の時間」の充実化を通して、基礎や基本の指導徹底に努めます。
④「家庭学習帳」や「生活の記録」を通して、基本的な生活習慣を身に付けさせます。
⑤「ノーTV&ゲームday」の実施により、家庭での会話や読書、学習時間の増加を図ります。

●伝統行事

①立志登山(刈田岳山頂) 2年生は蔵王の刈田岳山頂で立志式を行います。保護者の皆さんと1時間ほど登山した後、山頂で一人ひとりが将来の生き方を大きな声で発表します。昭和45年から続いている行事で、中学生の時に自身が経験している保護者もいます。霊峰蔵王の登山を通して、郷土への愛着が生まれています。

②巣箱作り・巣箱掛け 昭和30年の全国巣箱コンクールで文部大臣賞を受賞して以来、巣箱作りと巣箱掛けを行っています。また、白石川の白鳥に餌をあげる活動も毎年続けています。平成18年5月には、長年の野生動物保護の功労により、環境省自然環境局長賞をいただきました。これからも愛鳥活動に力を入れていきたいと思います。

▲見事なチームワーク！

③孫の手作り 昭和59年から、お年寄りに感謝の気持ちを込めて、孫の手を全校生徒で製作し、敬老会で贈呈しています。地元の竹を使用し、3年生が下級生に作り方の手順や注意点を説明します。白川中の伝統と地元の竹細工が、しっかりと後輩に受け継がれています。

●地域とともに（開かれた学校づくり）

①文化祭 地区民の皆さんを招待し、自分たちが日ごろ学習・体験してきた成果を発表する場です。昨年も劇「河童の涙」や恒例の合唱コンクールを行い、盛大な拍手をいただきました。また、クイズやマッサージなどを通して、地域の高齢者の皆さんと交流を深めました。生徒たちは、夏休み前から積極的に練習に取り組んでいます。

▲地域のお年寄りとの交流

②地域のための美化活動

年2回、地域の清掃活動を行っています。地区内の道路脇などのごみ拾いや分別作業、JR北白川駅舎の清掃活動を通して、地域貢献と環境問題を体験しながら、地域の一員としての自覚を高めています。

▲地域内の清掃活動を行う生徒たち

③地区民体育大会 昨年、白川地区民体育大会の一種目として中学校の校内マラソンが加わったため、生徒全員が地域の皆さんの大きな声援の中で、力いっぱい走り抜きました。毎日、朝と帰りに全校トレーニングで培った持久力を見せることができました。

④農業体験(食育学習)

今年から、白川振興会議などの地域の協力を得て、公民館近くの田んぼを借り、稲(もち米)を育てています。講師は地元農家の皆さんです。農業を知らない子どもが増えている中、食育を考える良い機会です。

▲一生懸命苗を植える生徒たち

5月7日の田植えには、保育園児と小学生も参加しました。秋には収穫祭を行う予定です。

▲こけしが放つ木の温もりを、次の世代に伝えていきましょう。

第50回全日本こけしコンクール
～ほほえみの年輪を重ねて～

5月3日から5日まで、ホワイトキューブで第50回全日本こけしコンクールが開催されました。今回のコンクールには、延べ224人の工人が1,063点の作品を出品。厳正な審査の結果、市内在住の新山吉紀さんの作品「9.5号」が内閣総理大臣賞に選ばれました。また、会場内ではこけしの実演販売などの多彩なイベントが行われ、3日間で約48,000人が来場しました。

■内閣総理大臣賞受賞作品「9・5号」

【講評】
弥治郎系伝統こけしの様式を、形態と描彩の両面から忠実に受け継ぎ、長年の研さんを積んで培った技術により、個性を加味して完成させることに成功した作品です。温和で可れんな表情と白い木肌は、鑑賞する人に和らぎを感じさせます。赤を基調にした色づかいが見事で、伝統こけしでありながら新鮮な雰囲気を漂わせる、優れた作品です。

弥治郎系工人
新山　吉紀さん

歴代の総理大臣賞受賞者は、すべて50代以上のベテランの方でした。ですから、47歳の私が受賞したと聞き、本当に驚きました。これからも、皆さんに喜んでもらえる良い作品を作っていきたいと思います。本当にありがとうございました。

満員御礼

◀公式キャラクター「こけっち」

●市内在住の受賞者一覧（敬称略）

内閣総理大臣賞	新山吉紀行美
国土交通大臣賞	加賀沼昌実子
中小企業庁長官賞	新山真由美
宮城県知事賞	新山実子
宮城県知事賞	高橋とし美
東日本旅客鉄道賞	六郷仁明
登別市長賞	佐藤慶子
海老名市長賞	柴田栄雄
山形市長賞	佐藤英郎
山形商工会議所会頭賞	高橋達穂
米沢商工会議所会頭賞	佐々木美学
エフエム仙台賞	新山孝志
七十七銀行賞	鎌田勝子
東北電力賞	加賀沼

●写真上段／受賞作品に見入る来場者
●写真中段／応援に駆け付けた宮城県のDCキャラクター「むすび丸」
●写真下段／会場内で行われた「城の会」

●写真上段／こけしの実演販売
●写真中段／段ボール製の甲冑試着体験
●写真下段／会場内に設けられた「こけしコンクール歴史通り」

コンクール会場・即売会場一番乗り！

こけしは安らぎを与えてくれる大切なものです

コンクール会場の一番乗り

小林　義典さん
（長野県在住）

20年ほど前から並ぶようにしています。こけしコンクールは50回目ですが、ちょうど私と同い年。自分の中でとても思い入れが強いイベントです。

こけしをたくさん並べると、木の香りがしてとても癒やされます。来年も、できれば早めに並びたいと思います。一番乗りになれて本当に良かったです。

木の温もりや形の美しさが大好きです

即売会場の一番乗り

山川　洋一さん
（新潟県在住）

5年ほど前から並び始めました。今回も、お目当ての品を手に入れることができましたので、とても満足しています。

デザイン関係の仕事をしており、こけしから感じ取れる木の良さや、その造形美に魅力を感じています。これからも一早く会場に行きたいと思います。